

スーパーマーケット
最前線@岐阜

Ⓣ

富山県のスーパー、大阪屋
ショップ(富山市)とアルビ
ス(同県射水市)が岐阜県内
で出店を強化している。し
のぎを削る北陸は、人口減少で
出店余地が狭まり、生き残り
をかけて中京圏へ進出した。
両社とも日本海で当日朝に水
揚げされた海産物を、東海北
陸自動車道で北陸の市場や物
流拠点から岐阜県内の店舗ま
で3時間前後で運ぶ。新鮮な
海産物を目玉商品にした店づ
くりを掲げ、海なし県で
市場開拓に乗り出している。

北陸スーパー、鮮魚が目玉

海なし岐阜で市場開拓

「新鮮 北陸直送」と書か
れたシール付きの鮮魚・刺し
身パックや、旬の海鮮を生か
したすしなどが所狭しと並ぶ
売り場。54店舗を展開する大
阪屋ショップは昨年10月、各

69店舗を持つアルビスは、
19年の美濃加茂市に続く2店

舗目を、今年3月に本巣郡北
方町にオープンした。27年3
月期までに両県で11店舗まで
拡大する計画を掲げる。池田
和男社長は「この地域に10店
舗ぐらいできれば、物流拠点
朝どれのお魚を」とPRする

ポップを掲げる。美濃加茂店
の売り上げに占める鮮魚の構
成比は北陸の店舗の2倍に達
する。池田社長は「日本海と
太平洋で魚の種類が違う。そ
の点が評価されているのでは
ないか」と分析する。

岐阜で魚の需要が高いと分

かり、北方店は鮮魚売り場と
バックヤードを美濃加茂店の
1・5倍広く取った。さらに
美濃加茂店ではすしの売り上
げが想定よりも高いため、北
方店ではすしを握るバックヤ
ードを2倍以上広げた。

◇ ◇

鮮魚と同時にすしの売り上
げも好調だ。安八郡安八町の
安ハスマートインターチェン
ジ(IC)工業団地に28年に
稼働を予定する食品製造工場
では、すしのシャリに当たる
米飯を製造する機能を備える
ことも検討している。

「競合は他にも出てくるだ
ろう。ただ、うちは他の会社
がやったら一番嫌だなという
状態ができていくから、決し
て怖くはない」。県内で圧倒
的なシェアを誇るスーパーの
バローを展開するバローホー
ルディングスの小池孝幸社長
は自信を示す。

バローは鮮魚や野菜、精肉
といった生鮮部門を強化して
おり、鮮魚売り場では、魚を

務原市に新店舗をオープン
し、岐阜県内に初出店。今年
4月には関市に2店舗目を出
した。東海北陸道沿いにドミ
ナント(地域集中出店)を進
め、2026年6月期までに
岐阜、愛知県で計5店舗まで
増やす。両県で200億円の
売り上げを目指している。

「高いニーズ」盛況
バローも生鮮強化



大阪屋ショップ関店のオープン日
の売り場。4月、関市市平賀



店員からさばいた魚を受け取る客。3
月、本巣郡北方町栄町、アルビス北方店